

今後の検討の進め方等について（案）



内閣府（防災担当）

令和 6 年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループ（第 1 回）
令和 6 年 6 月 2 6 日（水）

本ワーキンググループにおける主な検討事項、議論のポイント、関係者ヒアリング先（案）

主な検討事項	能登半島地震で見られた考慮すべき主なポイント	関係者ヒアリング先
■ 直接被害への対応 ・建物被害、ライフライン・インフラ被害への対応 ・孤立集落への対応 ・被災地へのアクセス・被害状況把握への対応 など ■ 自治体支援 ・被災自治体の事前準備・受援 ・周辺自治体からの応援 など ■ 避難所運営 ・二次避難 ・要配慮者への対応（保健・医療・福祉支援等） ・ボランティア・NPO法人・民間企業等との連携 など ■ 物資調達・輸送 ・被災自治体の事前準備・備蓄 ・ボランティア・NPO法人・民間企業等との連携 など ■ その他（分野横断的な対応） ・支援者への支援 ・住まいの確保 ・災害廃棄物処理 など	＜被災地等の特徴＞ ① 地理的特徴 ・日本海側最大の半島。低平地は非常に乏しい ・半島先端部は金沢市から道路距離で約140km など ② 社会的特徴 ・全国と比して高齢化率が高く、耐震化率が低い ・アクセスルートが限られている など ③ 季節的特徴 ・厳冬期であり、最低気温が氷点下となる日も見られた など ＜半島特性などによる災害対応上の課題等＞ ① 被災地の状況把握の困難性 ・被災地状況の速やかな把握が困難。二次災害の危険 ② 被災地への進入・活動の困難性 ・土砂崩落による道路の被災、地盤の隆起による進入路の制約 ・被災地支援人員の派遣、資機材の投入、復旧作業等が困難な状況 など ③ 過疎地域かつ高齢者等の要配慮者が多数存在 ・高齢化が進んだ地域での災害であり、避難生活が長期化。二次避難の実施。多数の孤立地域が発生 など ④ 被災地支援活動拠点確保の困難性 ・宿泊施設等の地域資源が限定的。施設の多くが被災 など ⑤ 積雪寒冷対策の必要性 ・厳寒期の避難生活を支えるための寒さ対策 など ⑥ ライフライン・インフラの復旧に時間を要したことに伴う影響 ・断水や避難生活が長期化。被災者のニーズが多様化 ・NPOやボランティア等によるきめ細かな支援の実施 など ＜その他横断的な事項＞ ・自治体職員の減少。民間企業等との連携充実による活力活用	○ 関係行政機関（府省庁） ・自治体支援実施省庁 ・ライフライン・インフラ所管省庁 など ○ 関係行政機関（地方公共団体） ・被災自治体 ・応援自治体 ○ NPO法人など ・ボランティア団体 ・中間支援組織 ・社会福祉協議会 など ○ 民間企業 ・物流事業者 など ○ その他有識者

関係者ヒアリングにおいて発表いただきたいポイント（案）

- 今回の災害発生前に進めてきた取組及び課題
（例：物資や資機材の備蓄、専門知識を有する人材の確保・育成・訓練、協定締結などによる協力者の確保 など）
- 今回の災害における取組および課題
 - ✓ うまく機能し、有効であった取組
（例：デジタル技術の活用により迅速化・効率化できたもの など）
 - ✓ 今回の災害ではうまく機能したものの、災害の規模や地域特性・時期によっては機能しない、もしくは見込み通りに機能しないと懸念される取組及びその考えられる改善方策
 - ✓ 災害発生前は機能すると見込んでいたものの、今回の災害では機能しなかった、もしくは機能したが見込み通りにならなかった取組及びその考えられる要因と改善方策
 - ✓ 今回の災害で得られた教訓やその教訓を受けて追加で必要となる取組の提案
（例：国、自治体だけでなく、企業・団体、国民等が各方面と連携して主体的に対策を行うために必要な取組 など）